

どんびま

2013年6月7日発行
発行者 椛の湖農業小学校

田の神祭

昔は、田植えは6月だった。今とは稲の品種も違っていたし、植える苗も苗代で大きく育てたものを手植えしていた。

とくちゃんは田植えが済むとやったと書いていたが、我が家では旧暦の端午の節句に田の神様(年寄たちはタナカミサマと発音していた。)のお祭りをした。



田の神の前に枯れた薄3本をコの字に折って両端を地面に挿して足にして、上に蓬と菖蒲を並べてお供えの台を作り、牡丹餅やほう葉寿司を供えて豊作を祈願した。

今は稲の品種は分けつタイプのものに変わり、箱で育てた若い苗を機械で植えるようになって、田植えは5月中旬までに済んでしまう。田の神祭もやっている家は少なくなってしまっている。季節を感じ、自然になじむ意味でも伝えたい行事の一つである。(草)

6月授業日のご案内

- | | | | |
|-------|-------------|-------------|----------------------------|
| ●日程 | 6月16日(日) | | |
| 受付 | 9:00~9:30 | ●昼食 | ほうば寿司・吸い物・ほうば餅 |
| 始めの会 | 9:30~9:40 | ●服装 | 作業のできる服装 |
| 授業 | 9:40~12:00 | ●持ち物 | 手袋、タオル、長靴、雨具、食器、箸、野菜持ち帰り用袋 |
| | お茶摘み・お茶もみ | | |
| | ほうば寿司作り | | |
| 昼食 | 12:00~13:00 | ●締め切り | 6月12日(厳守) |
| 授業 | 13:00~15:00 | ●問い合わせ・緊急連絡 | TEL 0573-75-4417 |
| | 畑の仕事 | | |
| 終わりの会 | 15:00~15:15 | | 090-5110-9362(山内總太郎) |

～5月の農小レポート～

泥んこになっても、田植えは楽しい

お天気は朝からくもりで、とても陽が当たる様子にはみえない。天気予報にも雨傘のマークは無く、それを信じて屋根テントははずさず、田植えは午後に行うことにして朝の会をした。

1 畑の授業。

カボチャ 先月持ち帰った種子を蒔いて育てた苗を持参して、各自の名札を付けて植え付けました。今年は畑の面積が増えたので、カボチャ畑も長くなった。

ジャガイモの手入れ 草取りをし、株と株の間ごとに一握りずつの肥料(安保兄堆肥)をやり土寄せをした。

苗植え 新しい畝をたてて、サニーレタスを植えた。

収穫 ホウレンソウとコマツナを収穫して、畑で一人分ずつポリ袋に入れて分けた。

2 昼食 (今月は田植えなので、この地方の「さなぶり」の風習に習ったメニュー)

ぼたもち(あんこ、きなこ)、ヨモギ餅(あんこ、きなこ)、白い餅(ヨモギがダメな人用に)、おにぎり3種(餅不得手の人用に)、野菜サラダ、味噌汁(筍、ワラビ)、天ぷら(もやし)白菜のおひたし、浅漬け、切干大根のサラダ。

3 シイタケの菌打ち (午前中にスタッフが、原木に穴をあける作業をして準備)

ブルーシートの上で出来るだけ雑菌を入れないよう注意しながらシイタケの菌の入ったコマを金槌で打ちこんだ。うまく管理をすれば来年の春に収穫できるはず。

4 田の授業 (事情があって去年まで借りていた田ではなく、今年から新しく借りた田(椀の湖グラウンドの下、面積約70a、小さな畑と小屋もついている。)での稲作となった。)

田植え 長方形の田んぼの長い辺の両畔に並んで入り、それぞれ、株間(苗を植える間隔)の印の付いた綱を張り、印の有るところにコシヒカリの苗を3本ずつ植えた。一列を植え終わると、綱を巻き付けた棒杭を物差しにして畝間(列と列の間隔)を計り綱を張り直すと、先に植えた列をまたいで印に沿って植える。その繰り返しとなる。

3畝(列)ほど植えた時から雨がポツポツ降りだしてしまっただが、皆、動じることなく頑張って植え続けた。幸い雨は強くはならず、お父さんお母さん方の手助けもあって、全部を植え終わった。ある先生の談によると、代かきの後に一度水がきれてしまったことがあったようで、土(泥)が固くなってしまっていたのが想定外であり、反省点であった。

5 ジャンボカボチャ

ジャンボカボチャ用に特別に借りた畑で、先月植え付けの準備をしていたが、今月は人も時間も余裕が無く、終わった後にとも考えたが雨のため断念。

翌日にスタッフが25本程の苗をうえつけた。今年は大物を作りたいものだ。

6 持ち帰り。

コマツナ、ホウレンソウ

バケツ稲の苗と土 9月にバケツ稲コンクールを行います、優秀な作品には賞品が出ますので、家族協力して大事に育ててください。毎日の観察と、できれば観察ノートを。

カブトムシの幼虫と落ち葉 カブトムシは成虫に成る7月に、カブトムシ運動会を行いますので、丈夫な成虫に育てて持ってきて下さい。落ち葉の水管理に気をつけて。

～あぼ兄の百姓ばなし～

「6月は食育の月」

5月に入ると、キャベツ、ブロッコリー、ダイコンなど春野菜の収穫期に入る。

遠くから眺めると、一面の青々とした畑にヒバリが鳴き、チョウチョが飛び交いのどかな農村風景である。だが、一歩畑の中へ入ってよく見ると、青虫の一行がキャベツの葉にへばりついている。ひどい年には葉は喰いつくされてすじだけになる。

あぼ兄がこの地域ではほとんど知られていなかったスティックブロッコリーを作った年も青虫が多い年だった。近くの保育園の先生にスティックブロッコリーをあげるからと呼びかけておいたところ、園児50人が来てくれた。ブロッコリー畑の横にキャベツ約300株が青虫にやられている状況を見せて、青虫捕りを持ちかけた。子どもたちは一斉に捕り始めた。素手で捕まえてあぼ兄の容器に入れてくれた。なんと、ラーメンのどんぶりに軽く一杯ほどあった。子どもたちには御礼にスティックブロッコリーを3本ずつ配った。

キャベツは外葉は喰われても、結球時には中から葉ができてくる事から、収量は落ちるものの農薬を使わなくても無事出荷ができた。以来、5月キャベツの葉が巻き始める頃、スティックブロッコリーの収穫時にあわせて青虫捕り隊を毎年お願いしている。今年はペットボトルを切って作った容器を腰につけた、本格的な青虫捕り隊がやって来た。いかにたくさん捕るか競いあう情景にあぼ兄はニンマリである。

教育上、その場で殺すわけにもいかず、初めての年は全部園へ持ち帰ってもらった。やがて成虫になると、外に飛び立たせる。あぼ兄の家は園から約500mの距離、南風に乗れば一っ飛びである。ある人はチョウは生かされた御礼にあぼ兄の家まで手を合わせる様に羽を合わせに来ているのだなどと言う。園長先生はそれより上手で、チョウは里帰り出産だと云われた。翌年から半分は置いて行ってもらうことにしたが、複雑な気持ちになる。

あぼ兄たちの子どもの頃は季節ごとにいろいろな遊びをした。春の野山や小川には子どもの遊び相手があふれていた。たとえば魚釣りのエサはクモがいい、いやミミズだ、いやいや木の中にいる虫がいいなどなど。青虫もその一つだ。

虫との出会いは幼い時の方が良いようだ。危険も伴うがいろいろな体験の中で、虫と遊ぶことは生き物との出会いであり、自然環境の価値を学ぶ機会でもある。経験のないまま大きくなると、虫を見るとただイヤで、すぐ殺せとなりがちだ。

後日、保育園へ給食の野菜を届けに行った時に給食係の方から「子どもたちはもってきたスティックブロッコリーを喜んで食べ、少しかたい茎の所まで食べた。」と聞いてホッとした。「自分で採って食べる」正に食育になった。

2005年、国は食育基本法という法律をつくった。岐阜県では「食と農を考える県民会議」が設立され、活動実践団体が選ばれる世話人の中に椀の湖農小も加わっている。

近年子どもから大人までの食の乱れが指摘されている。栄養バランスの偏った食事で肥満や生活習慣病になったり、食べ物を大切にしない人も増えていると云う。食べ物の多くを海外に依存し、伝統ある食文化も失われつつある時、食育はこうした問題を解決するために、食に関する知識や食べ物を選択する力を身につけて、健全な食生活ができる人間を育てて行くねらいである。

～かなちゃんの虫日記～

じゃがいもの追肥をしたとき、
 こんな虫を見ませんでしたか？
 赤色というより、茶色...
 黒い点々の数も多し...



よく見かけるテントウムシより、なんだか悪そう...
 そうです。悪いんです。ジャガイモやナスなどナス科の
 葉を食べます。葉を食べられると、野菜の育ちが
 悪くなるので、たくさんいると困ります。
 ニジユウヤホシテントウと呼びます。(28個の星！)

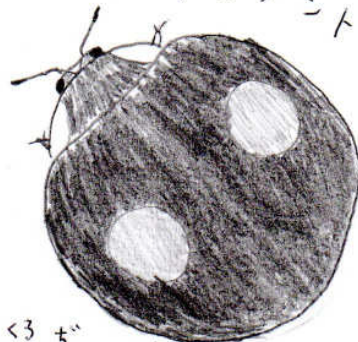
一方、よく見るテントウムシは、わたしたちの味方です。
 植物の葉や茎にびっしりついて、その汁を吸っている
 アブラムシをたくさん食べます。生きている間に
 5000～1万匹も食べるそうですよ！

ナホシテントウ



赤地に黒い点がワッ。

ナミテントウ



黒地に赤点2つ。4点のもいる。
 色が逆のもいる。